

# 第17回わくわくコンサート

## — みんなで楽しむ音楽鑑賞会 —

代表者 荻田朱理 (教育学部 学校教育教員養成課程  
小学校コース 保健体育科領域 4年)

### 1. 目的と概要

#### 【目的】

本事業は、小さなお子様やサポートを必要とする方をはじめ、日ごろコンサートに参加することが難しい方々が気軽にコンサートホールで音楽を楽しめる機会を創出することを目的にスタートし、今回で17回目を迎えました。香川大学の学生による実行委員会を中心に、卒業生・修了生、演奏者、企業、団体等のご協力を得ながら、無料のコンサートを実現してきました。毎回テーマに沿ったプログラム、ロビー・イベントを企画して、テーマ国の文化や芸術にふれていただく機会となること、またそれを通して市民の皆さまの交流・共生の場となることも目的としています。

#### 【概要】

◆テーマ: Beyond (超える) テーマ国: ドイツ (Bundesrepublik Deutschland)

◆会場: レクザムホール Reexam Hall (香川県県民ホール) 小ホール

◆【コンサートI】 13:00 - 14:00 (年齢制限なし・全自由席)

1. J. ブラームス : 子もり歌
2. L. v. ベートーヴェン : ピアノ・ソナタ 第21番 "ワルトシュタイン"より、エリーゼのために
3. J. S. バッハ: ブランデンブルク協奏曲 第4番より
4. C. D. v. デッターズドルフ: シンフォニア・コンチェルタンテより
5. 広瀬勇人: ブレーメンの音楽隊  
(アンコール) ベルリンの風

【コンサートII】 14:30 - 15:15 (5歳以上・全指定席\*)

J. ブラームス : ヴァイオリン協奏曲

バイオリン: 青山暖 指揮: 小森康弘

演奏: Wakuwaku 室内管弦楽団

#### ◆イベント

ロビー展示: 《ドイツ絵画》(満濃町立まんのう中学校美術部作成) 原画展

楽器体験: Bogen を使う楽器 (バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス)

ロビー保育

#### ◆主催・後援等

主催：第17回「わくわくコンサート」実行委員会

共催：かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ(KJO)

後援：ドイツ連邦共和国総領事館 香川県 香川県教育委員会 高松市 高松市教育委員会

協賛：(公財)南海育英会 松楠会(香川大学教育学部同窓会)

協力：香川大学 EU 情報センター(香川大学) 幸楠会(香川大学教育学部後援会)  
(株)レアスウィート 美巧社

## 2. 実施期間(実施日)

令和6年1月28日(日)

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

今回のわくわくコンサートは、「Beyond」(超える)とドイツをテーマに開催しました。「Beyond」のテーマのもとに、作曲家たちが従来の枠組みや概念を超え、新たな芸術の可能性を探求した作品でプログラムを構成すると同時に、困難を乗り越える勇気を示すことにしました。

もう一つのテーマ「ドイツ(Bundesrepublik Deutschland)」では、頭文字「B」に着目し、バッハ(Bach)、ベートーヴェン(Beethoven)、ブラームス(Brahms)といった作曲家、ベルリン(Berlin)、ボン(Bonn)、ブレーメン(Bremen)等の街にゆかりの作品をとりあげるとともに、弓(Bogen)で演奏する弦楽器であるビオラ(Bratsche)とコントラバス(Bass)、バイオリンを独奏者とする協奏曲をプログラムとしました。

### 【コンサートI】

ブラームスの《子もり歌》、ベートーヴェンの《エリーゼのために》、《ブレーメンの音楽隊》など小さいお子様も楽しめるプログラムを組みました。子どもたちになじみ深いリコーダー(Blockflöte)、室内楽や吹奏楽(Brass)など多彩な編成で演奏しました。

### 【コンサートII】

3大バイオリン協奏曲の一つですが、香川県ではオーケストラ伴奏での演奏機会が少ないブラームスの《バイオリン協奏曲》を、新進気鋭の青山暖さんをソリストに迎えてお聴きいただきました。



ブレーメンの音楽隊



ブラームス：バイオリン協奏曲



アンコール練習(ベルリンの風)

### 【ロビー・イベント】

ここ数年はCovid-19による感染拡大の影響で、本コンサートは様々な制約の中で、できる限りの取り組みを行ってきました。今回は、規制が解除されてから初めての開催となりました。昨年のアンケートでも来場者からのご希望が多かった「楽器体験」は、Bogen=弓を使う楽器(バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバス)をとりあげて再開することができました。ボランティアのマスク着用、手指消毒などの感染症対策には充分配慮し、考えられる対策をとっての実施となりました。



ロビー保育



楽器体験



電車展示



ロビーの様子



受付の様子



ホール内

### 【新しい試み】

コンサートⅠとコンサートⅡの2つのコンサートを企画して実施したことが挙げられます。今回はサンポートホール高松の改修に伴い、レクザムホール小ホールでの開催となりました。例年、1000名以上のお客様をお迎えしてきた本コンサートを定員800人のホールで実施するにはどうしたらよいかと、迷う日々が続きました。来場いただくお客様の人数的なニーズを満たすことは大きな課題でしたが、逆にこれをチャンスととらえ、これまでのコンサートでの課題解決を図ることができないかと考えました。コンサートの課題とは、昨年度の大ホールでの実施が、必ずしも小編成の音楽を集中して聴くことにつながらなかったのではないかと考えられることです。そのためにホール内が演奏中もかなり騒がしかったとお声をいただいていた。「わくわくコンサート」は、ある程度子どもたちが騒いだり、泣いたりしても「お互い様」のおおらかな気持ちですごくコンサートです。ただ、音楽を集中して聴くことと、ある程度騒がしいことには、一定の限度があると考えます。がまんしきれなくなったお子様が大泣きしていてもホールの外に連れ出してくださらないという事態も起こってきていました。そのため却って周りのお客様からクレームをいただくなど、「音楽を聴く」と「音楽を聴く機会」との狭間で、対応に苦慮し、運営側としては課題だと考えざるをえない点もでてきている状況にありました。

ホール担当の方と打ち合わせを行い、これまでのノウハウや経験をしっかり取り入れる努力をしながら、少しずつ計画を立てていきました。コンサートⅡは、高年齢層の方のご来場が増えていること、年齢を問わずですが、音楽をじっくり聴きたい方にお楽しみいただくプログラムとしたいと考えました。そのために年齢制限を設けることについては議論を重ね、検討しました。ロビー保育を実施し、希望者数に応じて担当してくれるボランティア学生を増員できる目途がたったこと、開演中にお子様をロビーに出たなら一緒に遊ぶ、声がけをするなどのスタッフを待機させておくこと、場内アナウンスの中で、「ロビーではお子様のケアをスタッフがお手伝いします」というアナウンスをいれることをはじめとして、考えられる対策を立てながら進めました。

結果として予約の面では、コンサートⅠ・Ⅱ、楽器体験ともに多くの皆様からご応募いただき、早々にすべての席が満席となりました。コンサートⅠは、ファミリーが多く、小さいお子様もたくさんご来場いた

だけました。予約開始一日足らずで満席となりました。コンサートⅡは少人数(一人、二人)のお申込みが多く、また年齢層もだいぶ高いように見受けられました。ご高齢の方がお一人で来られるというケースもあり、一つのコンサートを聴く機会の創出につながったのではないかと思います。うれしかったのは「これまでより静かに聴けた」「子どもたちも集中して聴いていた」のお声をいただいたことです。延べ数1600名を超える皆さまにお聴きいただいたことは大きな成果だったと考えます。

2024年は多くの苦難を乗り越え、Covid-19の前とは少し違う、「わくわく」がいっぱいのコンサートをお届けできたのではないかと思います。

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

企画を始めた時点では Covid-19 の対策を行いながら実施することが前提となりました。しかし結果的には5月にコロナ感染症が5類に移行し、これまでの3年間とは少し違った内容や対策で実施できるのではないかと見込みが立ちました。それに応じて、少しずつできることを増やしながらい計画の立案と決定をしていきました。要望が多かったものの、コロナの期間には出来なかった楽器体験を再開できるかもしれない。それでは、どのように実施できるのだろうか、またこれまでよりもっとよいイベントにするにはどうしたらよいのかなど、これまで以上に企画段階で考えることが多かったように思います。

当日は開場時間前から多くのお客様が足を運んでくださり、「音楽を楽しみたい」と感じている地域の方々の気持ちが私たちにも伝わってきました。12月にはインフルエンザの流行もあり、感染症対策はおろそかにできないため、ボランティア全員のマスク着用をはじめ、イベントでの手指消毒等々、可能な限りの配慮をしながら運営に取り組みました。コンサート終演後には、「素敵なおコンサートを開いてくれてありがとう」、「楽しかった」等のお声をたくさんいただくことができました。また、「コンサートはもちろん良かったが、大学生が頑張っている様子を見られてよかった」という大学生との交流を喜ぶ保護者の方からのお声もありました。香川大学の全学部の学生が参加しているこのコンサートは、参加したすべての学生にとって、地域の子どもたちや地域のみなさまとともに生きる経験ができる取り組みになったのではないかと考えます。また、早々にしめきらざるを得ないほど、多くの皆様からご予約いただいたこと、そして実際に会場でお客様と接した中で、わくわくコンサートが地域の方々にとって、欠かせないものになりつつあるということを実感しました。

今回のプログラムは‘Beyond’ (超える) が一つの大きなテーマでした。様々な困難に屈することなく、常に前を向いて乗り越え進んでいく勇気の大切さを、学生とお聴きくださった皆様で共有できたのではないかと考えています。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本事業を通し「地域に貢献する大学」として、学生ができることはなにかを考え、実行することの大切さを学びました。ここ数年のコンサートは新型コロナウイルスの影響を受ける中での実施となり、ロビー・イベントなどは中止したり、縮小したりせざるを得ない状況でした。感染症の影響が少し収まりつつあった昨年度は、広いスペースが確保できるステージ上での「指揮者なりきり撮影会」と「大ホールでピアノを弾こう!」を何とか実施しました。今年はさらに「楽器体験」「ロビー保育」「電車展示」を実施することができました。大学生ボランティアと接しながらイベントを楽しむ子どもたちのたくさんの笑顔や、それを見守る保護者の方の姿を見ることができ、喜びを感じるとともに、どのようにすれば難しい課題であっても実現することが可能になるのかを考え、工夫しながら乗り越えていくことの大切さを学びました。

運営は、主としてロビー、ホール、舞台運営の3つの部門で責任者を中心に進めました。特に当日は、ボランティアも加わり、これまでほとんど接点がない学生同士が、学部、学年、領域、異なる部活動を越えて協力し合い、良いコンサートを来場者にお届けするために動きました。コンサート終了後のアンケートで、関わったボランティア全員が「意義あるコンサートだった」と回答したのは、お客様からの多くの感謝を実感したことと同時に、それぞれの場所で実行委員やボランティアの一人ひとりの協働があったからに違いありません。

本事業は香川大学内だけで完結するものではなく、学生だけで行うことができるものではありません。演奏者、企業や団体の皆様、卒業生・修了生、先生方や大学職員の方々など、本当に多くの皆様のご協力を得て成り立っています。平成19年度から続いているコンサートを、今年度も無事に事故なく開催できたことを心より嬉しく思います。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

本コンサートは、毎年、前年度の課題や反省点を前回の実行委員会から引き継いで開催しています。感染症の大きな影響で様々な規制を強いられ、何とか繋いできたコンサートが、本年はようやく以前に近い形で実施できたことに感慨を覚えます。また、通例ではサンポートホール大ホールでの開催が改修事業の影響を受けて、昨年に続いてホール変更を余儀なくされた点は、前回の課題を今回に直接活かすということができにくく、さらに新たに起こると考えられる別の課題に対応せざるを得ませんでした。継続性、改善がしにくかった点が、一番困難な点でした。しかし、いくつかは、今後の活動をする上で活かせることがあります。まず予約についてです。大きなトラブルはなかったものの、事前に入場券が届かないというお客様がおられました。実行委員会ではそのようなお客様に対し誠心誠意対応しましたが、お時間をおとりしてしまうことがありました。入場証の発行されなかった原因については様々に考えられると思います。システムの改善も考えられるかもしれませんが、一番の問題は、入場証がいつまでに届くのか、また届かなかった場合に、どのように対応していただくのかについて、チラシ等に明記していなかったことであつたと考えます。来年度は、サンポートホールでの開催に戻る予定ですが、今回の予約での課題は非常に良い経験になりました。今後、予約制をとる場合には、今回の経験をもとに、よりよい予約方法やトラブルが起こった場合の対応を目指したいと考えます。

次に、今回初めて2部制でコンサートを行ったことに伴い、そのことに関する課題もありました。事前の打ち合わせでは第1部終了後にお客様を全員退場させたのちに再入場してもらうという流れでしたが、実際には子どもが体験スペースから離れないなどの理由により完全に全員に退場いただくことは不可能な状況になりました。来年度は、2部制での実施を行う予定はありませんが、今後、もし2部制をとる場合には、大きな参考になる経験だったと思います。2つのコンサートの時間的配置やロビー・イベントの開催方法、お客様対応など、検討する点は多いと思います。

今回、新しい形で実施したコンサートの経験を具体的な形で次の実行委員たちに継承し、改善を図っていくには、仕事内容を記載した資料を再度見なおし、作り直して伝えておく必要があります。来年度以降もわくわくコンサートが以前よりさらに良い形で継続していけるように記録を残し、気づいた反省点を検討し、今回サブリーダーを務めた実行委員たちに伝えておくことで、次回に活かしていきたいと思ひます。

来年度も多くの学生や地域の方々に関わっていただきながら、誰もが楽しめるコンサートを作り上げていきたいと思ひます

## 7. 実施メンバー



代表者 荻田 朱理(教育学部4年)

副代表 小松 奈那子(教育学部4年) 小林拓実(創造工学部4年) 中川 昂史(教育学部4年)

構成員 三宅 由希子(教育学部3年) 岩崎 菜奈(教育学部4年) 藤田太紀(教育学部3年)

日和佐 翔太(経済学部2年) 前田 光望(教育学部4年) 小倉 莉子(教育学部3年)

末澤 美咲(教育学部3年) 安田 葵(教育学部3年) 中山田 あかり(教育学部3年)

細谷 真子(教育学部3年) 相澤 咲希(教育学部3年) 阿部 綾奈(教育学部2年)

大西 桃佳(教育学部3年) 金井 優(教育学部2年) 島田 愛琉(教育学部2年)

釜野 紗良(教育学部2年) 北野あゆな(教育学部2年) 佐竹 美樹(教育学部2年)

平尾 皓志朗(教育学部2年) 藤岡 辰樹(教育学部4年) 上野 優(教育学部4年)

谷口 柚凪(教育学部2年) 大竹 秀昂(教育学部3年) 西本 匠舞(教育学部4年)

伊藤 葵(教育学部3年) 吉田 朱美玲(教育学部2年) 石原 佳歩(教育学部3年)

三好 葵生(教育学部3年) 西岡 優太(教育学部3年) 岡 友花(教育学部2年)

上田 和果(教育学部2年) 大立 愛(教育学部3年) 野上 愛日(教育学部3年)

新谷 咲乃(教育学部2年) 土居 ひなた(教育学部2年) 高井 花菜美(教育学部3年)

石原 愛(教育学部2年) 戸上 由美子(教育学部2年) 山下 紗英(教育学部2年)

秦 亨平(法学部2年) 小島 菜々美(経済学部1年) 美録 亮汰(農学部1年)

岩部 優菜(農学部1年) 大本 遊翔(創造工学部1年) 木村 舞衣(法学部1年)

倭 星也(農学部1年) 松本 春花(法学部1年)

デスモン・ロー・ハウ・キャ(創造工学部1年)

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		200,000円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
チラシ	32,000	4.38	140,160	
パンフレット	1,300	41.80	54,340	
ポスター	5	1,100	5,500	
*デザイン含む、封入作業含む				
合計			200,000	